

第228回山口西田読書会（2020年2月22日）

第227回（2020年2月8日）のプロトコル 担当 田中克典

1. テクスト 西田幾多郎『働くものから見るものへ』

「内部知覚について」「六」の第5段落 127頁3行目から128頁2行目まで  
読了

2. テキスト要約

第5段落の流れ

前半で、エネルゲイア（アリストテレス）による厳密なる意味における精神作用（自分の中から自分を造る）について叙述された上で、後半で、そこから自覚への到達について叙述されている

以下、要約

我々の自覚に於いて→自己が自己を知らない前に

→自己はない

自己働かない前に→自己はない

自己の内容

→自己の働くこと（自己を知ること）によって→生じる

自己の内容→（自己の働きによって）順次に知り行く

自己の潜在的内容（可能性）→順次にその全体を実現し行く

自覚の内容→如何なる対象界において発展するのか？

自己→自己の中に→自己を映す

自己の内容（自己の影）を映す鏡

→自己自身（物の上ではない）

自覚の意識→『時』の範疇に於いて発展する

『時』に於いて→自覚は成立しない

自覚に於いて→『時』は成立する

【一般論】 自覚→知るもの（主）と知られるもの（客）→ 一つ

→反省以前の直観

【西田】 真の自覚（自覚の意識の成立）

→自分の中に於いて（←これが付加される）→（自分が・主）→自分（客）を知る

知る我（主）\*知られる我（客）\*我が我を知る場所（我を映す鏡）→ 一つ

→自覚

自覚→結果がまた働くもの

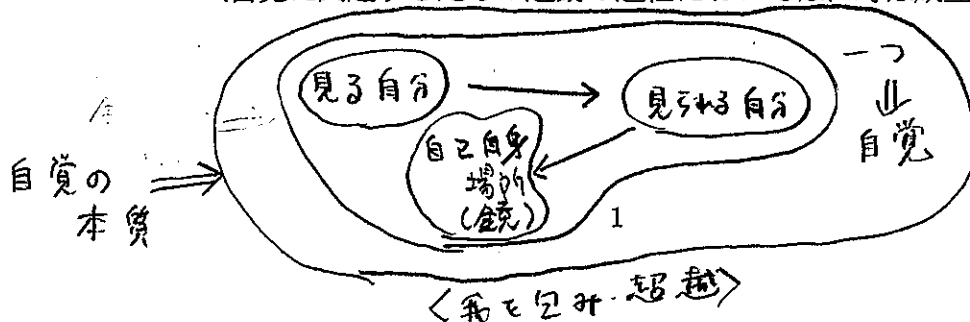
→潜在的なるものは→現実的なものの投げた影

→一々の自己が→創造的（エネルゲイア）でなければならぬ

我々の自覚の本質→  
我を超越したもの  
我を包むもの } →我自身であること

働く我に於いて→昨日も今日も→ 一 →その間に時の経過はない

（自覚に到達するための運動の過程においては、時は成立しない）



\*時について

善の研究 第2編 第6章 第3段落

意識現象→時々刻々移りゆくもの 同一の意識が再び起こることはない

「昨日の意識」と「今日の意識」の関係をどう考えるか？

【時間の定義】我々の経験の内容を整頓する形式にすぎない

意識の統一作用は、「時間」の支配を受けるのではない

意識の統一作用が、「時間」を成立させる

意識の根柢には、時間の外に超越する「不変的或者」がある

「昨日の意識」と「今日の意識」

→「同一の体系」に属し、「同一の内容」を有する

→両者は、直ちに「結合」され、「一意識」となる

「個人の一生」

→このような一体系をなせる「意識」の「発展」

精神の根柢には、常に、「不変的或者」がある

「不変的或者」→日々、その発展を大きくする

「時間」の「経過」

→この発展に伴う統一的「中心点」の変動

「中心点」がいつでも「今」

以上の記述を、勘案すると、以下のように考えられないか？

意識の統一作用⇒自覚

不変的或者⇒直観（働くものから見るものへ 序 第3段落 3ページ  
後ろから2行目以降より）

【哲学的問い】

自分とは何か？自分とは存在するものなのか？